

このコーナーでは、進路指導や学習指導において心がけていることについて、読者の先生方から寄せられたコメントを紹介する。

## 今回のテーマ

### 「推薦入試やAO入試を受験する、もしくは志望する生徒にどのような声かけや指導を行っていますか」

#### ▶▶ 推薦・AO入試を志望する意志を問いかける

生徒には、推薦入試やAO入試には面接や小論文・レポート提出など、そのための特別な個別指導を必要とし、2学期の通常の学習や一般入試に向けての受験勉強と「3足のわらじ」を履くことになり、大変負担増になることをまず伝える。その上で、その生徒の成績、得意科目やその学問分野への興味・関心・知識などを考慮し、推薦・AO入試から攻めていった方が有利だと判断すれば個別指導する。

推薦入試に挑戦するにあたっては、一般入試への取り組みと並行して行う強い意志が必要であることを念押しし、唯一その大学・学部・学科にふさわしい生徒として学校を代表している自覚を持たせるように努めている。

「自分の第1志望校であれば、受験の機会が増えるので、推薦・AO入試を受験するのもよい。しかし、第1志望校でなければ、安易に受験すべきではない」と指導している。

「本当にその大学に行きたいのか？駄目な場合、一般試験でそこを受けるか？」と問いかけるようにしている。

「相手先の学校について、先生に説明できるようなレベルまで調べつくしなさい。そこまで調べてもやっぱり受験したいのであれば、推薦試験などを活用し、複数回のチャンスで入学を勝ちとろう」という話をしている。

#### ▶▶ 推薦・AO入試を受験するリスクも伝える

出願に際しては、推薦・AO入試は準備に時間がかかるので、もし不合格になれば一般入試への備えが大幅に遅れるリスクを十分に説明するようにしている。

受験機会が増える反面で、不合格の場合、一般試験対応が遅れるなどのリスクな部分もあることを強調し、センター試験を課す推薦・AO入試にシフトさせている。

第一志望校であることを確認して出願させている。また、最初の入試が推薦入試やAO入試なので、生徒によっては失敗した場合一般入試に影響が出ることも少なくない。7月の保護者会でその旨も伝えて保護者も交えて出願するのがよいかどうか考える。

#### ▶▶ 普段の学習をおろそかにしないよう指導する

一般入試ではちょっと難しいかなと思われる大学を、チャンスを増やす意味で受験するように勧めている。ただし、そのための準備で肝心の教科の勉強自体がおろそかにならないように戒めている。

「推薦・AO入試で課される小論文や面接も、結局は毎日の授業や学習した内容が大切になる」と伝えている。

推薦・AO入試を志望する生徒にも基礎学力をつけるように指導している。一般受験を念頭に外部模試をできるだけ受けることを勧めている。また、進路が決定した生徒に対してもセンター試験を受けさせ定着度を確認させている。

#### ▶▶ 推薦・AO入試の受験に臨む生徒に対しての声かけ

「アドミッションポリシーを、自分の言葉で言い換えて教えて？」と、志望の原点を探るようにしている。

落ちたときのダメージが大きいと立ち直れなかったり、1ヵ月ほど無駄にしてしまったりする生徒がいるので、「落ちても気にするな。一般入試(前期/後期)で受ければいいので、入試対策の勉強もしなさい」と言っている。

事前に出来るだけの準備をともにしておいた上で、本番は「開き直って自分を出しきって」評価をしていただければ後悔が少なくすむことを理解させて、挑ませる。